

2014年12月2日

第47回衆議院議員総選挙（2014年12月14日）に関する声明

11月21日衆議院が解散され、本日選挙の公示がなされました。

安倍政権が成立して2年間、日本は大きく右に舵をとりはじめました。2012年の選挙戦では争点として示されなかった、解釈改憲による集団的自衛権の承認。秘密保護法の成立。反対を唱えていたはずのTPP交渉の推進。東京電力福島原発の事故の処理も混迷を極めています。アベノミクスは市民生活を豊かにするものとはならず、経済的格差は広がる一方です。物価の高騰、公共料金の上昇、不安定な雇用など、暮らしの厳しさを訴える声は増すばかりです。

安倍政権が標榜する女性の活躍も、女性全体の地位を高めようとするものとなっているでしょうか。世界経済フォーラムが発表する「男女の格差指数」調査で、日本は136カ国中105位です。女性の人権尊重、ジェンダー平等の遅れは、国連・女性差別撤廃委員会や人権規約委員会などの国際機関から繰り返し改善が指摘されています。

10月に政府は「すべての女性が輝く政策パッケージ」を打ち出しましたが、矯風会のシェルターに駆け込む女性たちの深刻な人権侵害の現実をみても、女性に対するあらゆる差別や暴力の撤廃にはいまだ遥か長い道のりを感じざるを得ません。

弱く小さくされた女性たちにこそ支援の手が行き届く政治が必要です。

平和憲法を持つこの国の軍事化が進行し、平和が脅かされようとし、命が軽んじられるような社会をこのままにしてよいのでしょうか。人が人として尊重される社会を実現する政治家を国会に送り出しましょう。

今回の選挙は、安倍政権の経済政策の失敗を隠し、支持率が高いうちに選挙をやって政権を安定させたい「今のうち解散」「大儀なき総選挙」と言われていますが、私たちはこの機会をいかして憲法の保障する市民生活を現実のものとするべく、投票行動をもって選挙に参加し新しい状況を作り出しましょう。

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会
理事長 川野安子